

それぞれの市の市民生活の状況や進めている政策の目安となる数字があります。市では、その順位の岡山県下ナンバー1獲得にこだわって各種の事業を推進しています。税金を払っている市民の皆さんにナンバー1の住民サービスを提供したいという思いがあるからです。そこで身近な項目で県内の他の14市との比較を行い順位付けをしたものの一部を紹介します。また、総社流の施策により進めているごみ減量や雪舟くん、学校給食での地産地消の進捗を示す数字も今月号のなかでお知らせしています。

特集 ランキングと数字で見る

総社のすがた

総社市を含む県下の15市と比較して、総社市が置かれている状況を見ようと、生活に身近な98項目について調査。集まったデータで順位付けをしました。昨年10月に行った国勢調査の結果、総社市は人口は6万6201人で県下4番目、世帯数は



こんにちは赤ちゃんで訪問した保健師と話す呑田美智子さんと翔くん(写真下)。この訪問や子育て支援業務で使う電気自動車(写真上)

3位

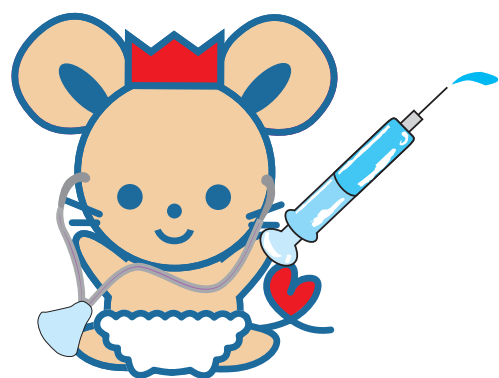
こんにちは赤ちゃん事業の訪問率

99.4%

生まれてから4か月までの早い時期に、保健師などが赤ちゃんのいる家庭を訪問し、身体測定や育児相談、健診の案内などを行うのが、こんにちは赤ちゃん事業。その訪問率で、平成22年実績。

2万3459世帯で同5番目のまちです。

集計したランキングでは、1位が6項目、最下位が6項目ありました。上位についてはこのページで主なものを紹介。職員数が少ないのは行財政改革の成果と考えます。また、予防接種率が高いことや国民健康保険の1人当たり医療費が少ないことなどは、市民の皆さんの協力によるものです。



しかし、順位としてよくない結果が出たものも当然あります。財政状況を示す指数をはじめ、学校施設の耐震化、自主防災組織の組織率、住宅用火災警報器の設置率、家庭ごみの量、がん検診の受診率がそれです。その内容を次のページで紹介しています。

行政ががんばらなければならぬものと、市民の皆さんの理解と協力を得て推進するものがあります。住みよいまちにするため、これらの課題に前向きに取り組んでいきましょう。



下水処理場

2位

公共下水道の水洗化率

92.2%

完成した公共下水道の区域内で、公共下水道に接続している世帯の割合(平成23年3月現在)です。同様に、農業集落排水は88%です。

下水の普及は、公共下水道と農業集落排水、浄化槽で進め、3つを合わせた市全体の下水の普及率は85.8%。県下4位の数字です。

1位

一般行政職の職員数

市民246人に1人

消防職員や幼稚園教諭などの専門職を除いた市の一般行政職は、市民246人に対し1人という割合(平成22年4月現在)になります。これは、人口あたりの職員数が15市で最少です。

の1人当たりの医療費。当然、少なれば少ないほど、市民の皆さんが健康な生活を送っているバロメーターの一つになります。

麻しん・風しんの接種率

98.2%

数字は、第1期(1歳から2歳未満)の平成22年実績。この予防接種は、段階的に接種を受けることになっており、第3期(中学1年生)の接種率も97.4%でトップ。第4期(高校3年生)が3位、第2期(幼稚園の年長児)が8位となっています。

国保の1人当たりの医療費が最少

328,815円

国民健康保険に加入している人

暫定1位

総社流の施策のため、暫定トップです。

雪舟くん1日平均乗車数

210人

(9月)

「地・食べ」での学校給食への市内産野菜の納入割合

10.98%

(10月末現在)

ランキングと数字で見る関連企画

ごみ減量	10位
雪舟くんの運行	11位
学校給食の地産地消	26位